

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第613号（平成28年2月10日発行）

**【今週号の主な内容】**

■ 《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■ 《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 汚染土壌事業化PT 次回WG開催のお知らせ
2. 平成27年度 調査・研究部会開催のお知らせ
3. 国際資源循環勉強会（仮称）開催のお知らせ

■ 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. 国交省 地球温暖化対策計画、港湾での低炭素化等
  2. 物流総合効率化法の改正案を閣議決定、モーダルシフト推進へ
  3. 岩手県が港湾利用促進プラン案、今年度内に策定へ
- .....

《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 汚染土壌事業化PTの次回WGの開催について

下記日時にて開催予定となっておりますのでご確認ください。

記

日時：平成28年2月25日（木）

13:00～14:00 WG⑥

14:00～15:00 WG①

15:00～16:00 WG③④

場所：みなと総研 3階 会議室

（WG②は開催しない）

2. 平成27年度 調査・研究部会開催のお知らせ

平成27年度の調査・研究部会を下記日程で開催しますのでお知らせします。

記

日時：平成28年3月1日（火）14:30から1時間程度

場所：（一財）みなと総合研究財団 3F 会議室

\* 部会終了後、下記の国際資源循環勉強会及び意見交換会を開催します。

3. 国際資源循環勉強会（仮称）開催のお知らせ

国際資源循環勉強会（仮称）を下記日程で開催しますので皆様のご参加をお待ちしております（詳細については添付の開催案内をご覧ください）。

- ★参加希望の方は添付の開催案内の申込欄にご記入の上、メール又はFAXにてお送りください。  
★調査・研究部会員の方は、別途メールにてお送りしている申込書にてお申し込みください。

## 記

日 時：平成 28 年 3 月 1 日（火）

RPPC 国際資源循環勉強会（仮称）・・・16:00 から 1 時間程度

講 師：一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会

～（仮）日本の鉄スクラップ輸出環境の変化と展望～

場 所：（一財）みなと総合研究財団 3F 会議室

※国際資源循環勉強会（仮称）終了後「意見交換会」を予定しております。

意見交換会参加費：1,000 円/人 ※参加費は、当日会場受付にて申し受けます。

### 【事務局】

=====

### 《リサイクルポートに関連する最新の情報》

#### 1. 国交省 地球温暖化対策計画、港湾での低炭素化等

国土交通省は2月4日、地球温暖化対策推進本部（本部長：安倍内閣総理大臣）が今年春までに「地球温暖化対策計画」を策定することを踏まえ、国土交通分野の地球温暖化対策等を審議するため、「社会資本整備審議会環境部会・交通政策審議会交通体系分科会環境部会懇談会」を開いた。会合では港湾における総合的な低炭素化や、モータルシフトに関する取組みの重要性を確認。これら施策については春に策定する計画に盛り込まれていく見通し。

地球温暖化に関する国際的な動きとしては、昨年11月～12月にかけて、フランス・パリで気候変動枠組条約第21回締結国会議（COP21）が開かれ、2020年以降の温室効果ガス排出削減のための新たな国際枠組みとして「パリ協定」が採択されている。

同協定では温室効果ガス排出量を早期に減少させ、今世紀後半には排出量と吸収量を均衡させることを目標として掲げており、現在2020年の発効に向けた準備を進めている。先進国を対象とした京都議定書とは異なり、対途上国を含む全締結国（196カ国・地域）が対象となり、各国では独自に削減目標を作成し、5年毎に更新することを義務付けている。

我が国ではパリ協定採択を受け、昨年12月に地球温暖化対策推進本部が、地球温暖化対策の取組み方針をまとめるとともに、今年春までに地球温暖化対策計画を閣議決定することとした。

同計画はCOP21に先立って決定した「約束草案」で示し2030年度のCO2等排出量26%減（2013年度比）に向けた道筋を明らかにするために策定することとしており、目指すべき方向性や対策・施策等を明記したものとして、とりまとめる予定。

今回開催した懇談会では国土交通分野で今後取り組むべき施策等について議論しており、港湾地域における具体的な取組みとしては、▽省エネルギー型荷役機械の導入促進（電動型トランスファークレーン、ハイブリッド型ストライドルキャリア、照明のLED化等）、▽リサイクルポート施策の推進による静脈物流の低炭素化、港湾再生可能エネルギーの利活用、▽再生可能エネルギーの利活用・節電の推進（洋上風力、太陽光発電、大規模蓄電施設の整備等）、

▽藻場・干潟、緑地等によるCO2吸収源の拡大、▽港湾の最適選択による貨物の陸上輸送距離の削減（外航船舶が寄港可能なCT施設整備等の推進）、などを挙げている。

今後、中央環境審議会と産業構造審議会の合同会合での審議やパブリックコメントを経て決定する予定。

【港湾空港タイムス】

## 2. 物流総合効率化法の改正案を閣議決定、モーダルシフト推進へ

政府は2月2日、トラックから内航海運へ輸送転換するモーダルシフトの取組み等を後押しするため、「物流総合効率化法（物効法）」の改正案を閣議決定した。

物効法は、物流コストの削減や環境負荷の低減等を図る事業に対して、その計画の認定、関連支援措置等を定めたもので、平成17年に施行している。今回の改定では、人手不足が懸念される物流の更なる総合化・効率化を図るため、効率化支援方を「施設整備」によるものから、「連携」によるものへ転換することとしている。

具体的には支援の対象となる流通業務総合効率化事業について、2以上の者が連携して行うことを前提に支援の裾野を広げるよう、要件を変更する。

新たに認定対象となる事業としては、トラック輸送から鉄道・船舶に輸送手段を転換するモーダルシフトの取組みや、地域内配送の共同化、輸送網を集約（輸送機能と補完機能の連携）する事業など。このような事業の計画（総合効率化計画）を大臣が認定し、関連施設・整備に対する税制上の特例や、計価格策定経費等の補助を受けられるようにする。

同改正により、省力化された効率的な物流、トラックドライバー不足の解消、CO2排出量の大幅な削減を実現していく方針。モーダルシフトの推進に関しては、2020年度までに34億t分をトラック輸送から他の輸送手段に転換することを目標としており、鉄道の貨物量を187億t（2012年度）→221億t、内航海運では333億t→367億tとすることを目指している。

【港湾空港タイムス】

## 3. 岩手県が港湾利用促進プラン案、今年度内に策定へ

岩手県県土整備部港湾課は、県内港湾の利用促進に向けた中長期的な目標並びに具体的な取組みを示した「岩手県港湾利用促進プラン」を今年度内に策定する方針。物流の効率化や災害に強い港湾、賑わいの創出等に向け、平成28年～32年の5年間で実施すべき施策等を盛り込んだ計画とする。地方港湾審議会の下に設置した同プラン策定部会で素案をまとめており、現在実施中のパブコメを経て、3月中旬に地港審を開き、提言を受ける予定。

新プラン案では、①復興による新たな社会資本を活かした物流・産業拠点、②安全・安心な港湾の実現、③海上からの観光客と地域住民の交流を通じた賑わいの創出や豊かな環境の形成、といった「物流・産業」、「防災・減災」、「観光・環境」という3つの視点の目標を掲げることとしており、具体的な施策として、これまでの取組みを継続するもの、また新規に取り組むべきものを掲げている。

このうち物流・産業に係る取組みとしては▽コンテナ貨物を集約するとともに、産業が集積する内陸と港湾との効率的な物流ネットワークを形成し、コンテナ貨物の県内利用拡大による定期

航路の充実【継続】、▽コンテナラウンドユースの取組により、空コンテナの効率的な調達【新規】、▽宮古～室蘭間のフェリー航路開設の準備【新規】、▽フェリー貨物の集荷と利用の促進【新規】、▽釜石港で“完成自動車輸送”の早期再開を目指す【継続】、▽バルク貨物輸送の掘り起こし（各港の主要貨物を基本に新規貨物の掘り起こし）【継続】、▽久慈港、宮古港及び大船渡港の工業用地への企業誘致【継続】、等を挙げている。

また▽宮古～室蘭間のフェリー航路開設の準備では、宮古港藤原地区の水深 10m 岸壁延長 185m を想定し、ターミナルビルを整備するにあたり民間活力の導入等、多様な整備・運営方式を検討する。

一方、防災・減災に関する取組みでは、▽港湾BCPの実効性のある運用【新規】、▽災害に強い港湾機能の充実【継続】、▽避難路の確保、港湾の就労者や利用者等の津波避難対策の推進【新規】、▽震災対応のノウハウの蓄積と共有、教訓の伝承【新規】、▽緊急物資輸送・復旧資材確保等初動体制強化【新規】、▽災害廃棄物の広域処理に関する取組み【新規】、▽各港におけるアセットマネジメントによる計画策定【新規】を掲げている。

災害廃棄物の広域処理に関する取組みでは、首都圏直下等の巨大地震が発生した場合に備え、災害廃棄物処理に関する関係機関と連携した広域処理方法を検討することとしている。

観光・環境では▽クルーズ船誘致に向けた活動の推進【継続】、▽フェリーを利用した観光客の誘致【新規】、▽みなとオアシスなど港湾空間を生かした地域振興と観光の活性化【継続】、▽マリナーなどを利用した海洋性レクリエーションの振興【継続】、▽港湾臨海部で発生する産業副産物のリサイクル推進【継続】、▽水質調査を実施し、湾内の水質を保全【継続】、▽良好な港湾環境の創造、等に取り組む。

#### 【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc\_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####

## 「RPPC 国際資源循環勉強会（仮称）」の開催について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃、リサイクルポート推進協議会活動にご協力頂き誠に有り難うございます。

この度、一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会のご協力のもと、韓国等の東アジア諸国の鉄スクラップ事情を展望し、日本における鉄スクラップ輸出環境（港湾施設整備等の必要性を含む）を考える「RPPC 国際資源循環勉強会（仮称）」を下記により開催いたします。

なお、勉強会は調査・研究部会活動の一環として開催いたしますが、国際資源循環に興味をお持ちの RPPC 会員の参加をお待ちしております。

参加希望の方は添付ファイルに所定事項を記入の上、2月22日（月）までに事務局宛てにメール又はFAXにてご連絡下さい。

### 記

#### RPPC 国際資源循環勉強会（仮称）

～（仮）日本の鉄スクラップ輸出環境の変化と展望～

講 師：一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会

日 時：平成28年3月1日（火）16:00 から1時間程度

場 所：みなと総合研究財団 3F 会議室

※国際資源循環勉強会（仮称）終了後「意見交換会」を予定しております。

意見交換会参加費：1,000 円/人 ※参加費は、当日会場受付にて申し受けます。

★参加を希望される方は以下の申込用紙にご記入の上、2/22（月）までにメール又はFAXにてお申し込み下さい。

申込先：リサイクルポート推進協議会 事務局 担当：本野・井手・榎並

FAX：03-5408-8741 E-Mail：[rppc\\_jimukyoku@wave.or.jp](mailto:rppc_jimukyoku@wave.or.jp)

.....  
勉強会                    参加                    •                    不参加  
意見交換会                参加                    •                    不参加                    ※○をご記入ください

参加者のお名前：ふりがな \_\_\_\_\_

ご 所 属： \_\_\_\_\_

電 話 番 号： \_\_\_\_\_ FAX： \_\_\_\_\_

E - m a i l： \_\_\_\_\_